

# コメント素案

※「小項目」欄 ○…委員間に相違

資料3

大項目	小項目	各委員のコメント	コメント素案(事務局作成)
(1) 教育研究等の質の向上	①	就職率100%は高く評価できる。 目標を達成しています。	就職希望者就職率100%を達成したことについて高く評価する。
	2	国家試験は全国平均を上まわっている。1, 2年生のカリキュラム改訂に4年生の意見を反映させるべき。 コロナ禍においても個別支援などにより、国家試験で一定の合格率を達成していることを評価します。病院実習が行えなかったことへのフォローアップ研修結果については次年度でご報告をお願いいたします。 目標を達成しています。	コロナ禍においても、個別支援などにより国家試験において一定の合格率を達成していることを評価する。 1, 2年生のカリキュラム改訂について、4年生の意見を反映させることを望む。 病院実習が行えなかったことへのフォローアップ研修について、次年度の報告を望む。
	③	国家試験100%合格や独自の授業マニュアル作成は高く評価できる。 ●コロナ禍においても国家試験で一定の合格率を達成していることを評価します。 ●「プリセプタ」とは、「医療・福祉施設において臨床栄養学臨地実習を指導する管理栄養士」とのことですが、一般の読者に分かるよう注書き等頂くことが望ましいと考えます。 自己評価及び評価区分いずれも目標値を上回っておりS評価ではどうでしょうか？ 実習の実施が難しかったことは残念ですが、目標を達成しています。	コロナ禍においても国家試験において一定の合格率を達成していることを評価する。 独自の授業マニュアル作成を高く評価する。
	④	国家試験合格率が目標値に達していない。 ほぼ目標達成となる合格実績だったとのことで、適切な評価であると思います。	国家試験合格率が目標値に達していない。 国家試験合格率がほぼ目標達成となるため自己評価は適切である。
	⑤	国家試験合格率100%は高く評価できる。 コロナ禍においてもオンラインを活用したグループワーク指導に力を入れること等により、国家試験で一定の合格率を達成していることを評価します。 目標を達成しています。	コロナ禍においてもオンラインを活用したグループワーク指導に力を入れること等により、国家試験において一定の合格率を達成していることを評価する。
	6	「連携実践教育科目における再編成が必要な科目について検討を行った」とありますが、これについては「連携実践科目のうち、人間総合学科の教員が担当している「公衆衛生学」「カウンセリング論」「薬の基礎科学」は科目責任者の変更に伴いシラバスの見直しを行いました。いずれの科目も保健・医療・福祉人材としての基礎的・普遍的な知識を教える講義であり、現在の講義内容が適切であるとの結論を得た」とのこと、具体的な検討内容・結果の記載が望ましいと考えます。 目標を達成しています。	連携実践教育科目における再編成が必要な科目に対する検討について、具体的な検討内容・結果の記載が望ましい。
	⑦	a. 博士前期課程 授業評価の実施により学生の意見を取り入れていることを評価します。 b. 博士後期課程 現行の取組みの検証や課題抽出、優先課題への対応等、PDCAの取組みを評価します。 社会人の聴講生にはオンラインによる聴講が肯定的に受け入れられており、こうした点は積極的に評価して良いのではと思います。	博士前期課程について、授業評価の実施により学生の意見を取り入れていることを評価する。 博士後期課程について、現行の取組みの検証や課題抽出、優先課題への対応等、PDCAの取組みを評価する。 社会人学生に対するオンライン授業の利用が肯定的に受け入れられており、評価できる。

大項目	小項目	各委員のコメント	コメント素案(事務局作成)
(1) 教育研究等の質の向上	⑧	<p>オンラインと対面のハイブリッド授業にいち早く取り組んだことは評価できる。</p> <p>年度計画の記載が「公衆衛生学を基盤としたイノベーションの創出にに取り組む教育・研究を行う。」のみでは、業務実績は「公衆衛生学を基盤としたイノベーションの創出に取り組む教育・研究を行った。」という結果以外は考えられず、さらに「オンライン授業・ハイブリッド授業を実施」したことをもって、「実績に対する評価S」とできるか、成果の判断は難しく思います。小項目11で教育内容・教育方法は記載されていますが、「人材の育成」として何を達成するか、数値目標を設定する等、具体的な成果を明らかにし深度ある要因分析ができるよう、次年度以降に期待します。</p> <p>海外の学生とのコミュニケーションなど、オンラインのメリットを活かすことができたとと思います。</p>	<p>オンラインと対面のハイブリッド授業にいち早く取り組んだことを評価する。</p> <p>年度計画に対する評価について、成果の判断が難しいため、数値目標を設定する等、具体的な成果を明らかにし、深度ある要因分析ができるようにしていただきたい。</p>
	⑨	<p>●教育課程については、感染拡大防止に伴い5課程の開講を中止しており、本来は、(ア)教育課程の評価はAとはならないものと考えます。また、教育研修についても同様で、10講座が中止となっており、(イ)教育研修の評価もAとはならないと考えます。</p> <p>●「知的資源の開放」として神奈川県からの要請にご対応頂いたこと、数値目標についてS評価を達成したことを評価します。</p> <p>●新型コロナウイルス感染症対策のための技術的支援と、教育課程・教育研修・実践研究の両立にはリソースの面で困難があったものと考えます。実績報告書において直面した具体的課題を明らかにすることで、読者の理解につながったものと考えます。</p> <p>●今後は、実践教育センターの本分として、感染を未然に防ぐための人材育成を強化する方向を模索すること、パンデミックは新型コロナウイルスに限られるものではなく、長期的な視点でのご議論に期待します。</p> <p>新型コロナウイルス感染症関連の講演・報告、技術的支援を高く評価したい。</p> <p>目標を達成しています。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症関連の講演・報告・技術的支援を高く評価する。</p> <p>教育課程については、新型コロナウイルス感染症の影響により5課程の開講を中止しており、本来は(ア)教育課程の評価はAとはならない。</p> <p>教育研修についても10講座が中止となっており、(イ)教育研修の評価もAとはならないと考えます。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策のための技術的支援と、教育課程・教育研修・実践研究の両立にはリソースの面で困難があったものと考えます。業務実績報告書において直面した具体的課題を明らかにすることが望ましい。</p> <p>今後も、実践教育センターの本分として、感染を未然に防ぐための人材育成を継続してもらいたい。</p>
	⑩	<p>授業評価の実施率および学生からの評価もほぼ目標値を超えている。</p> <p>ヒューマンサービスを実践できる人材の育成とオンライン授業のメリットをどのようにバランスさせるか、今後の議論に期待します。</p> <p>感染症対応のオンラインによる授業方法は学生の満足度が高く評価できる。</p> <p>法改正に対応し、オンライン講義も学生から好評であったとのことです。</p>	<p>授業評価の実施率が100%であったこと及び授業評価が目標値を超えたことを評価する。</p> <p>オンライン授業の学生満足度が高く評価する。</p> <p>ヒューマンサービスを実践できる人材の育成とオンライン授業のメリットのバランスについて、今後の議論に期待する。</p>
	⑪	<p>授業評価実施率とその評価が100%は素晴らしい。</p> <p>「学生同士が大学で共に学びあい、他領域に対する理解を深める機会が減少」した面は今後課題かと思えます。</p>	<p>授業評価実施率が100%であったことを評価する。</p> <p>学生同士が大学で共に学びあい、他領域に対する理解を深める機会が減少した面は、今後の課題である。</p>
	12	<p>授業評価(5段階中4以上)の実績75%という数値には、オンライン授業の難しさが表れていると考えます。大学・大学院ともノウハウを共有の上、議論頂くことを期待します。</p> <p>「学生同士が大学で共に学びあい、他領域に対する理解を深める機会が減少」した面は今後課題かと思えます。</p>	<p>授業評価(5段階中4以上)の実績が75%であったことは、オンライン授業の難しさが表れたものと考えます。大学・大学院ともノウハウを共有し、議論していくことに期待する。</p> <p>学生同士が大学で共に学びあい、他領域に対する理解を深める機会が減少した面は、今後の課題である。</p>
	13	<p>成績優秀者について、適正に評価されたものと思えます。</p>	<p>成績優秀者について適正に評価されたものと考えます。</p>
	14	<p>適正な成績評価が実施されたことによる、適切な評価であると思えます。</p>	<p>適正な成績評価が実施されたと考えます。</p>
	15	<p>適正な成績評価が実施されたことによる、適切な評価であると思えます。</p>	<p>適正な成績評価が実施されたと考えます。</p>
	16	<p>決算報告書によると教員(常勤)数を充足できなかったとあり、一方で、クロスアポイントメント制度の活用や他キャンパスの教員による講義などにより、教育・研究の充実は図られたとあります。クロスアポイントメント制度の活用や第一線で活躍する実践者等の活用により教員(常勤)の人数を削減する方向であれば、予算の検討も必要と考えます。</p> <p>教職員の採用については迅速かつ適切であったとのことです。</p>	<p>決算報告書によると、<b>計画上</b>の教員(常勤)数を充足できなかったとあり、一方で、クロスアポイントメント制度の活用や他キャンパスの教員による講義などにより、教育・研究の充実は図られたとある。クロスアポイントメント制度の活用や第一線で活躍する実践者等の活用により教員(常勤)の人数を削減する方向であれば、予算の検討も必要と考える。</p>

大項目	小項目	各委員のコメント	コメント素案(事務局作成)
(1) 教育研究等の質の向上	17	図書館利用の向上に資する具体の対策の策定が望まれる。 図書館利用者減少に対して公平なサービスを提供することは課題かと思えます。	図書館利用者減少に対し、公平なサービス提供や利用者数向上に資する具体的な対策の策定が課題であると考え
	⑱	コロナ禍に対応すべき教員の能力向上のFD・SDは回数、質ともに評価できる。 オンライン・オンデマンド等を活用した積極的なFD/SD研修の実施を評価します。 オンデマンド研修の実施などは、コロナ禍でのデジタル化促進がもたらした良い面であったと思えます。	オンライン・オンデマンド等を活用した積極的なFD・SDの実施について、回数・質ともに評価する。
	19	Webオープンキャンパスへの申込数からしても入学者確保は良好と思われる。 学部入学者受験倍率は目標を達成していますが、達成できた要因の分析は強みの強化につながり、重要と考えます。 数値目標が達成できています。	WEBオープンキャンパスへの申込者数が多く、入学者確保は良好と考える。 学部入学者受験倍率は目標を達成しているが、達成できた要因の分析は、強みの強化につながり、重要である。
	⑳	安定した大学院入学者の確保が出来ている。 難しい状況下で受験倍率の数値目標を達成できており、積極的評価されてはと思います。	難しい状況下で大学院入学者受験倍率の数値目標を達成できていることを評価する。
	21	定員に満たなかった教育課程についての要因分析と対策状況については、次年度の課題とするのではなく、今年度の総括として実績報告内で記載されるべきものと考えます。 新型コロナウイルス感染症対策を講じながら学習環境の支援に取り組まれています。	新型コロナウイルス感染症対策を講じた学習環境の整備を行っている。 定員に満たなかった教育課程についての要因分析と対策状況は、次年度の課題とするのではなく、今年度の総括として記載されるべきであると考え
	22	コロナの影響に伴う学生への経済的支援が独自に行われていることは高く評価できる。 引き続き、コロナ禍における経済的支援、オンライン化による学生の孤独・孤立等へのサポート等、本学らしい学生に寄り添った取り組みに期待します。 ボランティア等の地域貢献活動の禁止については、感染拡大防止の観点と、学生のモチベーション、コロナ禍の高齢者の居場所づくり活動の停止等による地域の健康への影響など、バランスの取れた議論を期待します。 オンライン等で学生への学習支援が行われており、適切な評価であると思えます。	オンライン等で学生への学習支援が行われており、評価できる。 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う学生への経済的支援が独自に行われていることを評価する。 引き続き、コロナ禍における経済的支援、オンライン化による学生の孤独・孤立等へのサポート等、保健福祉大学らしい学生に寄り添った取り組みに期待する。 ボランティア等の地域貢献活動の禁止については、感染拡大防止の観点と、学生のモチベーション、コロナ禍の高齢者の居場所づくり活動の停止等による地域の健康への影響など、バランスの取れた議論を期待する。
	23	学生への高いキャリア支援が整備されている。 【数値目標に対する実績】の就職説明会参加病院・施設数の評価は、あくまでも基準どおりC評価とすべきと考えます。 結果的に就職希望者就職率は100%を達成しており、また、卒業年次の学生のアンケート結果も「満足」が95%を占めていることを評価します。 就職先説明会の中止はやむを得ない事情であると思えます。	就職希望者就職率は100%を達成しており、また、卒業年次の学生のアンケート結果も「満足」が95%を占めていることを評価する。 学生への高いキャリア支援が整備されている。 対面での病院・施設説明会が中止となったことについて、新型コロナウイルス感染症の影響に鑑みやむを得ないと考え
	㉑	学術論文、著書等の件数は目標値を超えているが、質的評価が全くされていない。 オンラインでの学内発表会を開催するなど、積極的に情報発信されています。	オンラインでの学内発表会を開催するなど、積極的に情報発信している。 学術論文・著作等の件数は目標値を超えているが、質的評価がされていない。

大項目	小項目	各委員のコメント	コメント素案(事務局作成)
(1) 教育研究等の質の向上	25	科研費等の獲得実績は素晴らしい。更なる伸長を期待したい。 科学研究費採択率は高いが、少なくとも講師以上は全員結果に関わらず申請すべきである。 研究活動を推進する体制、整備について積極的に取り組みがされたものと思います。	科学研究費の獲得実績は高く評価できる。研究活動を推進する体制整備について積極的に取り組んだものと考えられる。 科学研究費採択率は高いが、少なくとも講師以上は全員、結果に関わらず申請すべきである。
	26	市民公開講座の回数は目標値を大幅に超えており評価できる。 オンラインを活用し適切に実施されています。	オンラインの活用等により公開講座等を積極的に実施しており、評価できる。
	27	行政機関及び民間企業を含めた産学官連携事業件数は目標値を超えている。 数値目標を達成していることから着実に成果が表れているものと思います。	行政機関及び民間企業を含めた産学官連携事業件数が目標値を超えており、着実に成果が表れているものと考えられる。
	28	海外大学との交流事業は目標値に達している。 オンラインを活用して海外大学等との交流を行いました。	オンラインを活用して海外大学との交流を行い、目標値に達している。
(2) 業務運営の改善・効率化	29	役員会と経営審議会との役割の違いがわからない。 定期的に役員会等が実施され、委員会には学外委員を登用しているなど、透明性のある大学運営に努めているものと思います。	定期的に役員会等が実施され、委員会に学外委員を登用するなど、透明性のある大学運営に努めている。 <del>役員会と経営審議会の役割の違いを明確にしてほしい。</del>
	30	クロスアポイント制度や臨床教授称号付与等、柔軟な人事制度を採用している。 柔軟な人事制度の活用により教育、研究の充実が図れたものと思います。	クロスアポイントメント制度や臨床教授称号付与等、柔軟な人事制度を採用しており、教育・研究の充実が図れたものと考えられる。
	31	事務組織の見直しをなされ、事務の効率化が図られているものと思います。	事務組織の見直しにより、事務の効率化が図られているものと考えられる。
(3) 財務内容の改善	32	財務内容改善に対して収入と支出の比率に対する具体的な目標値が設定されていない。 科学研究費の応募を促進し、採択率を向上できています。	科学研究費の応募を促進し、高い採択率を維持している。 収入における自己収入割合を高め、財務内容の改善に努める。
	33	数値目標が不明確。 「財務諸表等の概要」では、電気代、ガス代、下水道代等、合計86,882千円については、コロナ禍の影響により執行できなかったことが明かとして積立金として整理されており、各種経費の抑制は、コロナ禍の影響も大きく、主体的な取り組みによる成果ではない部分もあるため、「自己評価」の「光熱水費の削減」等により「計画的な取り組みが実施できている」ものの、高い成果を挙げているとは言い切れないと考えます。 ただし、コロナ禍において、Wi-Fiの導入やオンライン会議によるペーパーレス化が進捗した点は評価できると考えます。 オンライン授業を実施したことにより、ペーパーレス化や水道光熱費の節減効果があったものと思います。	Wi-Fiの導入やコロナ禍におけるオンライン会議の実施によるペーパーレス化を評価する。 オンライン授業の実施によりペーパーレス化や水道光熱費の節減効果があったものと考えられる。 「財務諸表等の概要」では、電気代・ガス代・下水道代等、合計86,882千円については、新型コロナウイルス感染症の影響により執行できなかったことが明らかであるとして、積立金として整理されている。各種経費の抑制は新型コロナウイルス感染症の影響も大きく、主体的な取り組みによる成果ではない部分もある。よって、光熱水費の削減等により計画的な取り組みは実施できているものの、高い成果を挙げているとは言い切れないと考える。 数値目標が不明確である。
	34	業務実績に「適正な管理・執行」とありますが、「適正でない管理・執行」とは何か、内部統制からの逸脱は1点たりとも発見されていないのか、具体的な記述を期待します。 予算の見直しが定期的あるいは必要に応じて実施されるとなおります。	予算の見直しが定期的あるいは必要に応じて実施されることとなる。 業務実績に「適正な管理・執行」とあるが、「適正でない管理・執行」とは何か、内部統制からの逸脱は全くなかったのか、具体的な記述を期待する。

大項目	小項目	各委員のコメント	コメント素案(事務局作成)
(4) その他業務運営	35	Wi-Fiの導入や、令和3年度に向けては、感染症対策を考慮した什器の更新計画を立てているとのこと、環境変化に対応した施設整備計画を策定できているものと考えます。単年度予算に捉わられることなく、迅速な整備を期待します。 設備投資は計画的に進められているものと思います。	設備投資が計画的に進められている。 Wi-Fiの導入や、次年度実施予定の感染症対策を考慮した什器の更新計画について、環境変化に対応した施設整備計画を策定できているものとする。単年度予算に捉わられることなく、迅速な整備を期待する。
	36	防災等の危機管理体制について、「防災」はあくまでも例であり、危機管理という観点から、幅広く対応状況を検討すべきと考えます。例えば、今年度「新型コロナウイルス感染症対応マニュアル」も策定されていますが、コロナ禍の業務運営全般への影響等、対応すべきリスクは多々存在したと考えられ、年度計画への反映も必要だったものと考えます。 防災等の訓練が実施され、教育研修により規範意識の向上を図られています。	防災等の危機管理体制について、「防災」はあくまでも例であり、危機管理という観点から、幅広く対応状況を検討すべきとする。例えば、「新型コロナウイルス感染症対応マニュアル」も策定しているが、コロナ禍の業務運営全般への影響等、対応すべきリスクは多々存在したと考えられ、年度計画への反映も必要だったものとする。
	37	積極的な情報公開、情報発信姿勢を評価します。 大学WEBサイトの更新を行うなど、積極的な情報発信を行っています。	大学WEBサイトの更新を行うなど、積極的な情報発信を評価する。
	38	オンラインを活用したアンケート調査等、実効性を高めるための取組みを評価します。 コンプライアンスの徹底について研修を着実に実施しています。	オンラインを活用したアンケート調査等、実効性を高めるための取組みを評価する。 コンプライアンスの徹底について研修を着実に実施している。
(5) 点検・評価	39	自己評価基準を策定する等の積極的な取組みを評価します。継続的な見直しにより、実効性が高まることを期待します。 自己評価については教職員間で共有され、新たに基準を策定し改善につながるよう取り組んでいます。	自己評価の教職員間での共有や、自己評価基準の策定等、積極的な取組みを評価する。 継続的な見直しにより、実効性が高まることを期待する。
	40	業務実績評価書は受領後速やかに公表されており、透明性ある運営が行われているものと思います。	業務実績評価書は受領後速やかに公表されており、透明性ある運営が行われている。

大項目	小項目	各委員のコメント	コメント素案(事務局作成)
その他		<p>研究に対しては普遍的な評価を、財務については収入と支出の分析に基づく内向きの目標設定を、地域貢献については大学独自のイノベータ的な地元貢献を期待します。</p> <hr/> <p>●コロナ禍において、日々環境が激変する中、オンライン化等への迅速な対応と、本学らしい学生に寄り添った運営を評価します。</p> <p>●学習機会の拡大や、経費抑制効果含め、オンライン化によるメリットは大きいと考えますが、教育においても、法人運営においても、主にコミュニケーションという観点からデメリットもあろうかと考えます。本学らしい分析と対応に期待します。</p> <p>●常勤の教員数を充足できていない状況が継続していますが、クロスアポイントメント制度の活用や他キャンパスの教員による講義等に対応されています。このような中で、ヒューマンサービスを実践できる人材育成を行う本学らしい学生に寄り添った少人数教育を行うには、どのような教員の人員構成を目指すのか明かにして行くことが重要と考えます。</p> <p>●パンデミックにより変化のスピードが加速する現代において、機動的に計画を見直し実行することは組織の成長に欠かせないものと考えます。中期計画で掲げられている目標は、「普遍的価値を持ち達成されるべき目標」とのことですが、それではPDCAサイクルを通じて、組織が成長することを期待できない中期計画になってしまいます。コロナ禍を経て本学に期待される役割も変化していると思われます。数値目標が目指す姿を達成するために適切なものとなっているか含め、改めてご検討お願いしたいと考えます。</p> <hr/> <p>①数値目標が設定されていない小項目がありますが、自己評価の文面だけでは客観的評価がしにくいいため、検討して欲しい。②新型コロナウイルス感染症は広範囲に影響を及ぼしていると思われるが、これらを評価する際の判断基準が評価者によって差が生じていないか？ 以上</p>	<p>研究については普遍的な評価を、財務については収入と支出の分析に基づく内向きの目標設定を、地域貢献については大学独自のイノベータ的な地元貢献を期待する。</p> <p>コロナ禍において、日々環境が激変する中、オンライン化等への迅速な対応と、保健福祉大学らしい学生に寄り添った運営を評価する。</p> <p>学習機会の拡大や、経費抑制効果含め、オンライン化によるメリットは大きいと考えるが、教育においても法人運営においても、主にコミュニケーションという観点からデメリットも考えられる。保健福祉大学らしい分析と対応に期待する。</p> <p>常勤の教員数を充足できていない状況が継続しているが、クロスアポイントメント制度の活用や他キャンパスの教員による講義等に対応している。このような中で、ヒューマンサービスを実践できる人材育成を行う保健福祉大学らしい、学生に寄り添った少人数教育を行うには、どのような教員の人員構成を目指すのか明かにして行くことが重要と考える。</p> <p>パンデミックにより変化のスピードが加速する現代において、機動的に計画を見直し実行することは組織の成長に欠かせないものとする。中期計画で掲げられている目標は「普遍的価値を持ち達成されるべき目標」とのことだが、それではPDCAサイクルを通じて、組織が成長することを期待できない中期計画になってしまう。コロナ禍を経て、保健福祉大学に期待される役割も変化していると思う。数値目標が目指す姿を達成するために適切なものとなっているか含め、改めて検討してもらいたい。</p> <p>数値目標が設定されていない小項目があるが、自己評価の文面だけでは客観的評価がしにくいいため、検討してもらいたい。</p> <p>新型コロナウイルス感染症は広範囲に影響を及ぼしていると思われるが、これらを評価する際、評価者によって判断基準に差が生じているのではないかと。</p>